

令和7年9月1日

立教188年

9月号
第636号



発行所

天理教宇仁大教会
〒677-0015 西脇市西脇770-4
電話 0795(22)4066 番
FAX 0795(22)4072 番
unigrandchurch@yahoo.co.jp

9月28～30日 全教一斉にをいがけデー



散歩道

ユマニチュードという認知症のケア技法がある。この言葉の由来は、フランス領の植民地出身の黒人が「黒人らしさを取り戻そう」と始めた文化運動（ネグリチュード）を基に、人（フランス語でユマン）とかけあわせたものである。▼このケアの柱となるのは「見る」「話す」「触れる」「立つ」ことによる援助である。当たり前のようにだが、たとえば「見る」とは監視や観察ではなく病状や表情を、きちんと目を見つめて、「話」し、心の交流を深め、体に「触れる」場合もやさしく斜めの角度で衝撃を少なくするそうである。この技法は、認知症患者に限らず、家庭や、職場など、すべての人間関係にも通じるものがあるといわれる。

▼愉達第四号に「身上事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治りを願い、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたascar道があることを伝えよう。」とある。

九月は「全教会布教推進月間」、月末の三日間は、例年通り「全教一斉にをいがけデー」が展開される。「親身に寄り添う」にをいがけ・おたすけを実践しよう。

一理塚

今年は非常に暑い夏になりました。国内各地で四十度を超える日々。そんな酷暑の中、今年もこどもおぢばがえりが開催されました。一日だけではありませんでしたが、兵庫教区の会場に参加させていただきました。ひのきしんの内容は入場者へ靴袋（ビニール袋）配布。午前中は予定通り余裕を持って対応することができ、この程度なら一日楽しんでくれると思っておりました。ところが昼になってから一転、次から次へと大勢の方が来場され、交代する間もなく総動員でひたすらビニール袋を渡しておりました。ようやく落ち着いて休憩に入ったのは十五時ごろ。聞けば昨年の最高来場者数より多かったとのことでした。まあ大変ではありましたが充実した一日となりました。

「この家へやって来る者に、喜ばさずには一人もかえせん。親のたあには、世界中の人間は皆子供である」（稿本天理教教

祖傳第三章「みちすがら」より）と、この言葉は学生時代にこどもおぢばがえりの時期には毎回聞かせていただいた言葉であります。学生時代の頃のように終始笑顔で子供たちのお世話どりする余裕はなかったのですが、そんな中一人の男の子が私にハタッチを求めて手を出してきました。私のようなおじさんにも嬉しそうに接してくれるその子を姿から、会場内で子供たちが接してくれた若い人たちがしてくれたのであろうと感じ入りました。

十五年ほど前「性格リフォームの匠」と呼ばれTVやラジオに出演もされていた心理カウンセラーの心屋仁之助さん（現在はJIN佐伯仁志）が今年五十年ぶりに「こどもおぢばがえり」に参加されたそうです。

「おぢば、は、お地場、すべての人間のふるさと、らしくてそこに「帰る」そんな夏休みのこどものお祭り。五十年前、田舎の友だちと一緒に行った記憶がうっすらとあって、五十年経っ

てまさかの追体験。子どもの頃には分からなかったこと、意味、見えていなかったことがありありと見えて、見るもの聞くもの「すごい」しかなかった。すごい。なんでこんなことが出来るんだろう。尊敬しかない、すごい。そして祈りの場所の神聖さよ。子ども向けのはずのイベントもそれぞれのクオリティが素人仕事ではなくて、真剣に水鉄砲も撃ち合ってしまったわ（笑）世の中にはいろんな神話があって、いろんな神様がいて、いろんな考え方があって、でもとても道徳的で、個人的にとっても親和性を感じる素敵な空間でした。また行こう。カレーも異様に美味かった。」ととても満足されたようです。

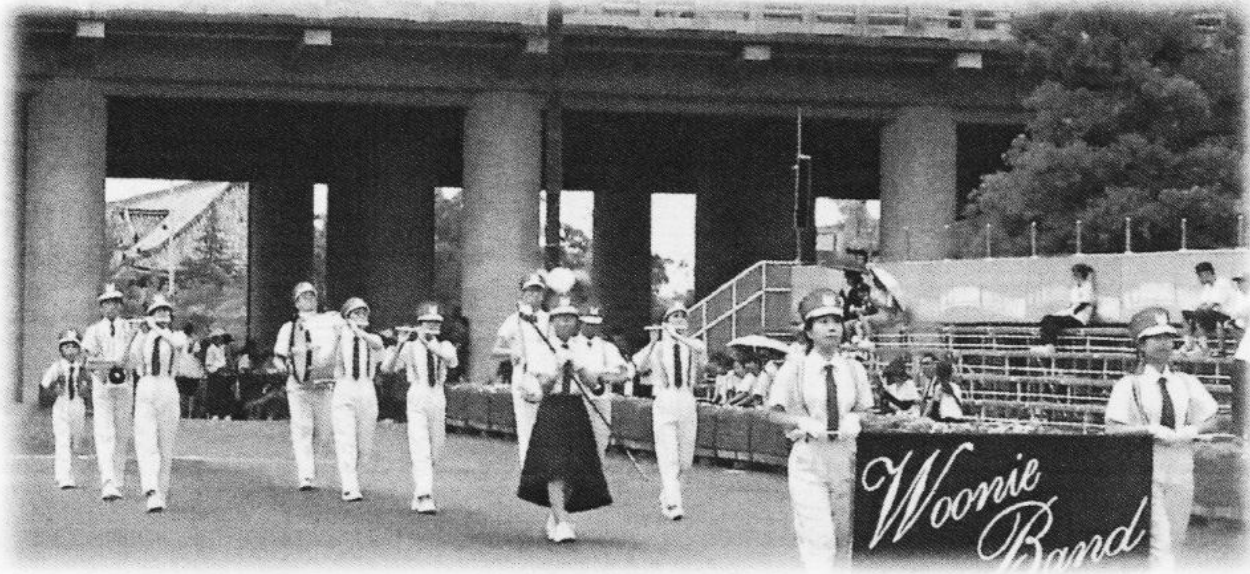
心屋さんはサラリーマン時代に一生懸命働いてお金儲けをしたけれど一向に幸せな気持ちになれず、心理カウンセラーに転身し多くの方を助けてこられました。そんな実績のある方が五十年ぶりにおぢばに帰られて感じたことは、今までの経験から築き上げたことが、実は天理教

の教えに近いということであったいうのです。心屋さん自身はすっかり忘れてしまったであろうお道の話、おぢばがえりでの体験が、カウンセリング技術を高める種になっていたのではなからうかと想像します。

こどもおぢばがえりのプロگرامも、パレードがなくなり、プール行事もなくなり以前と比べて規模が縮小されている面はありますが、時代は変われど根底に流れる「全ての帰参者に喜んでいただく」という精神は今年もあったということを感じました。自身改めて気づかされた話でありました。また、子供だから未信者だからお道の話は理解できないだろうという姿勢でお世話どりするのではなく、いずれお道の素晴らしさに気付いてくれるかもしれない、またおぢばに帰ってくれるかもしれないと、常に緊張感を持って事にあたればならないと感じたのでありました。

ウーニーバンド 十六回目の金賞!!

八月二日、鼓笛オンパレードに出演させて頂きました。少年会員四名、育成会員八名、計十二名で今年は『The Sound of Music』という曲を演奏させて頂きました。



今回で十六回目の金賞を受賞となりましたが、発足以来長年応援していただいた皆様のおかげ、また今日まで繋いでくださった先輩方のおかげであります。今後も引き続き応援をお願いします。

また新しい隊員も募集しておりますので、よろしくお願い致します。



少年会より こどもおぢばがえり 報告と御礼

七月二十七日から八月三日まで、約十六万人が真夏のおぢばに帰ってこられました。

ようやく募集や運営にコロナの影響も少なくなってきたこともあり、宇仁団の帰参者も昨年より三十七名増え二七一名でした。内訳は少年会員一七〇名（うちわかぎ三〇名）育成会員一〇一名でした。

また詰所でも二十四教会五十二名の方が受入れのひのきしんにご尽力頂き、期間中気持ちよく過ごさせて頂きました。

多くの方々ひのきしんの姿から、喜ばさずには帰されんとなのおやさまの親心が伝わった事と思います。

子どもたちの心に映った生きる喜びとたすけあいの心を育てていけるよう、今後の少年会活動にも活かしていきたいと思えます。

お忙しい中また猛暑の中、それぞれのお立場でお力添え頂き、

本当にありがとうございました。
少年会宇仁団団長 原田信一

立教百八十八年の「宇仁詰所ひのきしん 教会別参加数」「こどもおぢばがえり 帰参団体数」の詳しい詳細は、左記のQRコードからご確認できます。



『教祖と歩む三年千日』 教会布教実動報告 次号掲載のお詫び

八月の教会布教実動報告の掲載におきましては、ページ数の関係上、今月にて掲載が難しいため次号（十月号）にて掲載させて頂きたいと思えます。報告していただきました教会におきましてはお詫び申し上げます。

布教研修会のご案内

教祖百四十年祭も大詰めを迎え、九月を「全教布教推進月間」と定め、全教会での活発な布教活動と、多くのようぼくの実動を目指します。

にをいがけ・おたすけは教祖へのご恩返しの実践であり、教祖が最もお喜びくださる歩みです。一方で苦手意識を持つ方もおられるため、自覚を高め、残る年祭活動を勇んで勤め切るべく、布教研修会を開催いたします。教会長はもちろん、一般ようぼくの皆様もぜひご参加ください。

主催 布教部・婦人会・青年会

日程 立教百八十八年

九月九日（火）

内容

一、布教講話

講師 西村一郎先生

天理教八生兵庫分教会長

一、布教実動

一、振り返り

質疑応答

大教会毎月団参

実施報告（八月）

八月十七日（日）お盆休みの大阪市内渋滞を予想して大教会八時出発としましたがスムーズな流れでおつとめ時間一時間前に詰所に到着しました。
十一時半に東礼拝場にてお願い
いつとめに参加しました。



伏せ込みひのきしんを十三時より開始。詰所南庭の剪定や溝掃除をさせていただきました。各家庭のお盆のつとめや自治会また村の行事の多々ある中を毎月団参に心に置いて参加下さい

ましたメンバーに敬意を表すものです。

〈参加者〉

帰参者：四十五名

伏せ込み行事参加：二十八名

別席：五名

○九月の毎月団参のご案内

〈日時〉

九月十四日（日）

十一時半 東礼拝場集合

〈内容〉

本部お願いつとめ参拝

午後 にをいがけ（天理駅）

ひのきしん（詰所）

九月開催の毎月団参について
の問い合わせは

九月担当（原田道彦：090-

8525-2942）まで

また、詳細は左記の QR コー

ドからご確認ください。



おぢば通信

七月のうごき

◎修養科修了

鴨の國 松尾 倫浩

◎教人登録

兵庫中央 笹倉 晃生

◎七月帰参者

四〇一名
（詰所調べ）

九月行事予定表

6日 青年会例会

7日 青年会宇仁分会布教推進日

9日 婦人会例会

布教研修会

14日 宇仁大教会毎月団参

15日 布教実働日

19日 少年会例会

24日 大教会月次祭

午前十時三十分執行

26日 本部月次祭

午前九時執行

28～30日 全教一斉

にをいがけデー

婦人会より

◇大教会炊事当番

9月 中河合

10月 豊原

11月 神福A

よろしく

お願いします